

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	公園みどり課	
施策	26	都市基盤施設の維持・強化	評価 責任者	森 勝利	内線 7260
小施策	26-3	都市公園の整備と利用促進	評価 シート 作成者	藤村 幸道	内線 7261

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
快適で住み良い都市環境形成のため、都市公園や緑地等の整備を推進し、盛岡の緑に対する市民意識の高揚や公園等の利活用の向上に努める必要がある。特に盛岡城跡公園については、公園と史跡の整備やイベントの開催などにより内外に魅力を発進し、お城を中心としたにぎわいのあるまちづくりを進める必要がある。		憩いや安らぎ、交流の場として、また、災害時の避難場所として公園整備を推進するとともに、利用の促進を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市街地,その他の市域, 市民・民間事業者		憩いや安らぎ、交流の場としての公園の整備や活用が促進される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 一人当たりの公園面積	m ² /人	↗	当初値 (H25) 11.3 R1目標値 12.0 R6目標値 12.0 	⇒	・公園整備等により、一人当たりの公園面積が増加した。 ・公園整備を進めたことによる。 ・民間宅地開発等により公園が整備されたことによる。
指標② 公園等の利用件数	件	↗	当初値 (H25) 156 R1目標値 200 R6目標値 250 	⇒	・H30は265件となりR6目標値を上回る実績となった。 ・H29が前年より落ち込むなど、年度によっての変動はあるものの、全体的には利活用が増加してきている。 ・公園活性化交流広場の開催等によりイベントの開催を促したことにより、継続的な利活用が定着してきた。 ・H30には新たにイベント利用がなされた近隣公園や児童公園が加わった。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・今後の公園整備整備予算の確保。 ・公園整備後の適正な運営(維持)管理。	⇒	・公園整備に係る国の交付金額の減少。 ・公園整備及び維持管理に係る財源の確保。
			・魅力のある公園が少なく、公園の利活用に影響している。 ・施設補修や樹木剪定等の維持管理が行き届かず、公園の質を低下させている。	⇒	・市民ニーズが多様化し、公園を積極的に利活用しようとする市民が少ない。 ・公園維持管理費用の絶対的な財源不足。

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 区画整理地内において、未整備のまま放置される公園が増えないよう起債単独事業により計画的に整備を進める。 ★ 木伏緑地において、公園整備の新たな手法である公募設置管理制度(Park-PFI)を活用し、民間事業者による公園施設整備や収益施設から利益の一部を公園運営(維持)管理に充てることにより魅力ある公園として持続的に機能の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆1 公募設置管理制度を活用した整備を拡充し、事業を推進させる。 ☆2 新たな岩山エリア整備計画に基づき民間事業者を活用した整備を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ★ 公園活性化交流広場によるイベント等の公園利活用を図る。 ★ 民間事業者と協働による魅力あるイベント等を開催し、市民意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆1 公募設置管理制度等を活用した整備を拡充し、公園の魅力向上を図る。 ☆2 長寿化対策支援事業を推進させ、老朽施設の改築を図る。